

十九首八幡宮の分祀と遷座は、掛川藩主となった井伊家の関与が考えられそうです。あくまでも想像の域を出るものではありませんが、十九首の地名の起こりが戦国時代末期の16世紀後半まで遡ることと、17世紀末とされる各地の首塚伝説の登場時期を勘案すると、十九首の地名は直親終焉の地に由来するもので、その慰霊と顕彰のために井伊家が平将門の首塚伝説を重ね合わせ祀り伝えていったとも考えられます。また、二つ池の池面に臨む八幡宮の景観は、井伊氏の発祥の地である井伊谷の奥浜名湖周辺や、琵琶湖を臨む井伊彦根藩の本拠彦根城周辺の景観と重ね合わせていたのかもしれない。